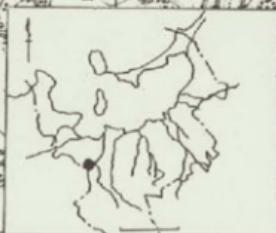


西区
福岡市西区
浦江遺跡

福岡市理藏文化財調査報告書第165集



1998

福岡市教育委員会

序 文

室見川上流の西側には、背振山から派生した西山、飯盛山など500m級の山々が連なっています。これらの山々の裾野に広がる台地には金海式甕棺、土塙墓から銅鏡、銅剣等を出土した飯盛遺跡群や装飾古墳で知られる吉武熊山古墳、南北朝時代の館跡である都地館址と数多くの遺跡があり貴重な遺跡群として関係各方面的注目をあつめているところです。

また室見川の東側に広がる早良平野に縄文時代後期の四箇遺跡があり、縄文時代後期の人々の食生活を知る上で貴重な遺物などの発見もあります。

このように室見川両岸には貴重な遺跡が多く、その成果は考古学のみならず関連学間に多大な影響をもたらしています。

今回の公園建設でも歴史時代の倉庫等の検出などの発見があり貴重な資料を追加することができました。本書が学術研究や学校、社会教育の分野において役立てていただければ幸いです。

調査に際し、有益な御助言をいただいた先生方、参加御協力下さった作業員、各関連事業のみなさまに末筆ながら心より感謝申し上げる次第です。

昭和62年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 佐藤善郎

例　　言

1. 本書は南金武児童公園建設に伴なう埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 事業は福岡市建築局公園建設課からの調査依頼を受け、福岡市教育委員会文化部埋蔵文化財課第1係が発掘調査、資料整理、報告書作製を行なった。
3. 報告書の作成は、二宮忠司と補助員の加藤元信、田中稿二、大庭友子、藤村佳公恵が行った。事務は岡崎洋一、岸田隆が担当した。
4. 本書の執筆は二宮が、挿図は加藤、田中、藤村、大庭が行い、写真撮影は大庭が行った。
5. 本書の編集は二宮が行った。
6. 浦江遺跡の調査番号は8430、遺跡略号VRC、福岡市分布地図094-A-11である。
7. 発掘調査によって出土した遺物や図面、写真等の記録類は整理しだい埋蔵文化財センターに収蔵、保管する予定である。
8. 本書に掲載した地図は建設省国土地理院の承認を得て、同院発行の25万分の1地形図、N1-52-10-11-4ふくおかせいなんぶ(福岡11号-4)を複製したものである。

本文目次

Iはじめに.....	1
1. 発掘調査に至るまで.....	1
2. 発掘調査の組織と構成.....	1
3. 立地と環境.....	1
II調査の記録.....	3
1. 発掘調査の概要.....	3
2. 遺構.....	3
3. 遺物.....	4

挿図目次

Fig. 1 周辺の遺跡 (縮尺 1/25000)	表紙
Fig. 2 浦江遺跡遺構配置図 (縮尺 1/600)	2
Fig. 3 浦江遺跡 SX-01, SB-01~05実測図 (縮尺 1/20・1/100)	4
Fig. 4 浦江遺跡出土石器・土器実測図 (縮尺 1/2)	5

図版目次

PL. 1 遺跡・遺構写真	
PL. 2 浦江遺跡出土土器・石器 (縮尺 1/4)	

第1章 はじめに

1. 発掘調査至るまで

浦江遺跡の発掘調査の発端は西区金武字浦江に児童公園の建設であった。昭和58年の試掘調査の結果、一部削平は受けているが遺構が発見されたために昭和59年7月1日より7月30日までの約1ヶ月間の調査期間を設定、実施した。

2. 発掘調査の組織と構成

浦江遺跡の発掘調査、整理報告には数多くの人々によって漸く完結することができた。関係者は次の通りである。記して感謝したい。

調査委託 福岡市建築局公園建設課

調査受託 福岡市教育委員会

調査担当 文化部埋蔵文化財課

発掘担当 埋蔵文化財第1係、折尾 学、二宮忠司、佐藤一郎、岡嶋洋一、岸田 隆、

調査、整理補助員

赤司善彦(現、福岡県技師)、岡部裕俊(現、前原町技師)

加藤元信、田中稿二、大庭友子、藤村佳公恵

資料整理及び調査協力者

柳光雄、牛尾豊、牛尾準一、尾崎達也、柴田大正、結城弥澄、青柳恵子、有吉千栄子、尾崎京子、太田頼子、北島藤子、齊藤美紀枝、清水裕子、南里三佳、奥田洋美、平田ミサ子、真名子順子、山野住実恵、伊藤みどり、牛尾シキヨ、牛尾奈美枝、牛尾秋子、尾崎八重、大内文恵、大穂朝子、大穂栄子、大穂玉枝、菊地ミツヨ、菊地栄子、菰田洋子、金子ヨシ子、正崎山須子、惣慶とみ子、典略初、真名子ユキエ、鍋山千鶴子、八尋君代、結城シズ、結城千賀子、結城信子

3. 立地と環境

背振山系から派生した500m前後の山塊が北に延び西山から飯盛、叶ヶ岳に達する。西山から派生した高位段丘は東に流れる室見川に達している。この高位段丘の中間部に遺跡が立地する。南に金武古墳群、北には金武遺跡、都地遺跡群のほかに、銅鏡、銅剣が出土した飯盛、高木遺跡があり、室見川両岸には数多くの遺跡が立地し、その時期も縄文から歴史までと幅広い。

2 造 構

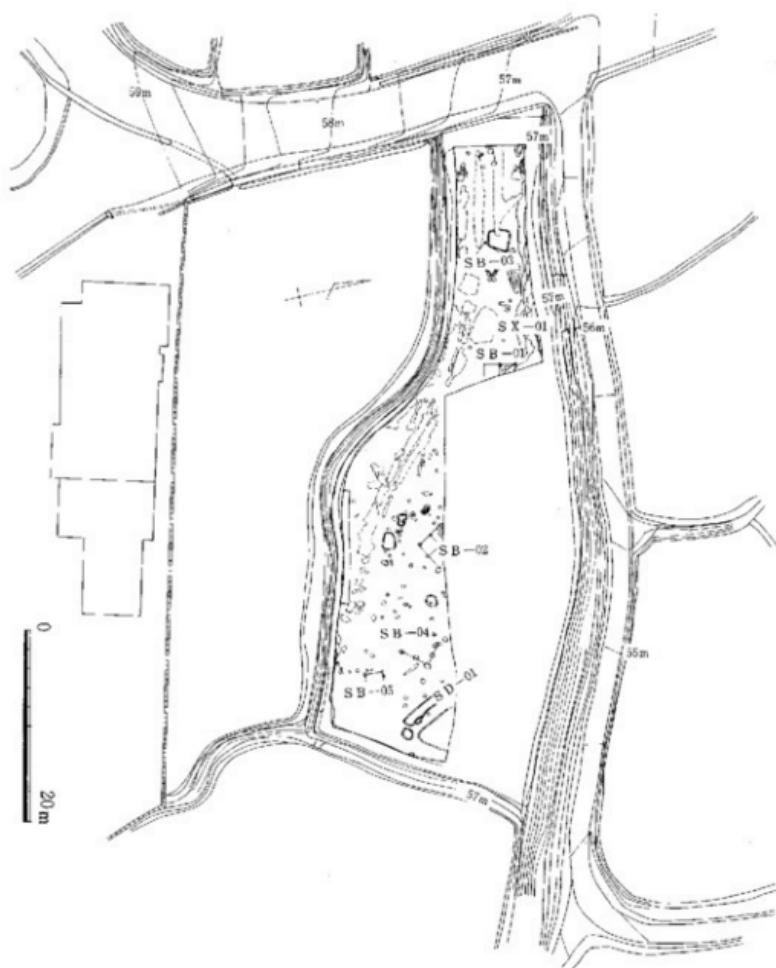


Fig. 2 浦江遺跡造構配置図 (縮尺 1/600)

第2章 調査の記録

1. 発掘調査の概要

昭和57年公共事業計画で西区大字金武字浦江に児童公園建設計画が埋蔵文化財課に提出された。公園予定地は浦江C遺跡の範囲内であり、この計画に基づいて試掘調査を行った。その結果、一部削平を受けてはいるが遺構の検出を見たため、本調査を必要とした。試掘調査の結果から本調査の打ち合せを公園建設課とを行い、昭和59年6月2日より本調査を開始することとなった。本調査は試掘の記録をもとに開始したが、再度試掘トレチを設定し、遺構の削平程度を確認した上で表土剥ぎを開始した。試掘の結果、南側部分は著しく削平を受けており北側部分にしか遺構が残っていない事や、水田耕作の為に南側をカットされていること、北側にも段落ちが認められ、遺構の保存状態がわるいことが判明した。このため北側部分の段落部分は調査区域から除外することとし、調査対象面積1,302m²の内、調査面積は500m²となった。

2. 遺構

掘立柱建物や石組遺構、溝状遺構、Pit等を検出した。全体的に削平が著しいため溝の底面Pitの底面しか検出することができなかった。掘立柱建物は5棟検出した。SB-01は1×2間以上、SB-02は2×2間以上、SB-03は1×1間、SB-04は1×2間、SB-05は1×1間である。この内SB-03、05は竪穴住居址の柱穴の可能性がある。石組遺構は、段落部分から検出したが、形状からみて井戸の底面とも考えられるが確定はできない。

3. 遺物

図示した以外に数十点の須恵器破片が出土したがどれも図示できないものである。1は玄武岩を石材とした磨製石斧である。刃部は丁寧に研磨されている。SX-01出土。2も同じくSX-01出土である。体部内外はタタキによる整形を行っている土師器である。このほかSX-01からは3、5、6、8、9が出土している。SX-01は、これらの土器が新しい時期を示すことから8をもってSX-01の時期、平安時代末期と考える。4、7はSD-01からの出土である。高台がかなり内側にはいる所から平安期のものと思われる。細片ながらSB-01、02からも同様の土器が出土しているところから同じ平安期のものであろう。SB-03、05は土器が出土していない。SB-04からは平安末期の土器が検出している。

4 通 物

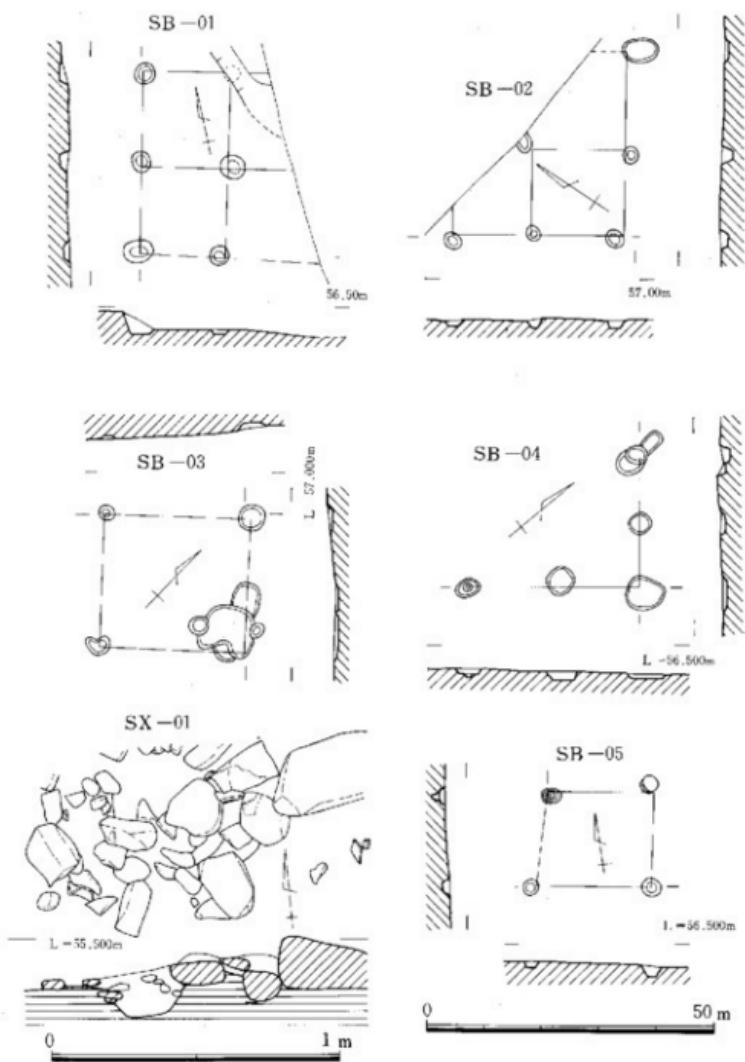


Fig. 3 浦江遠路 SX-01, SB-01~05実測図 (縮尺 1/20・1/100)

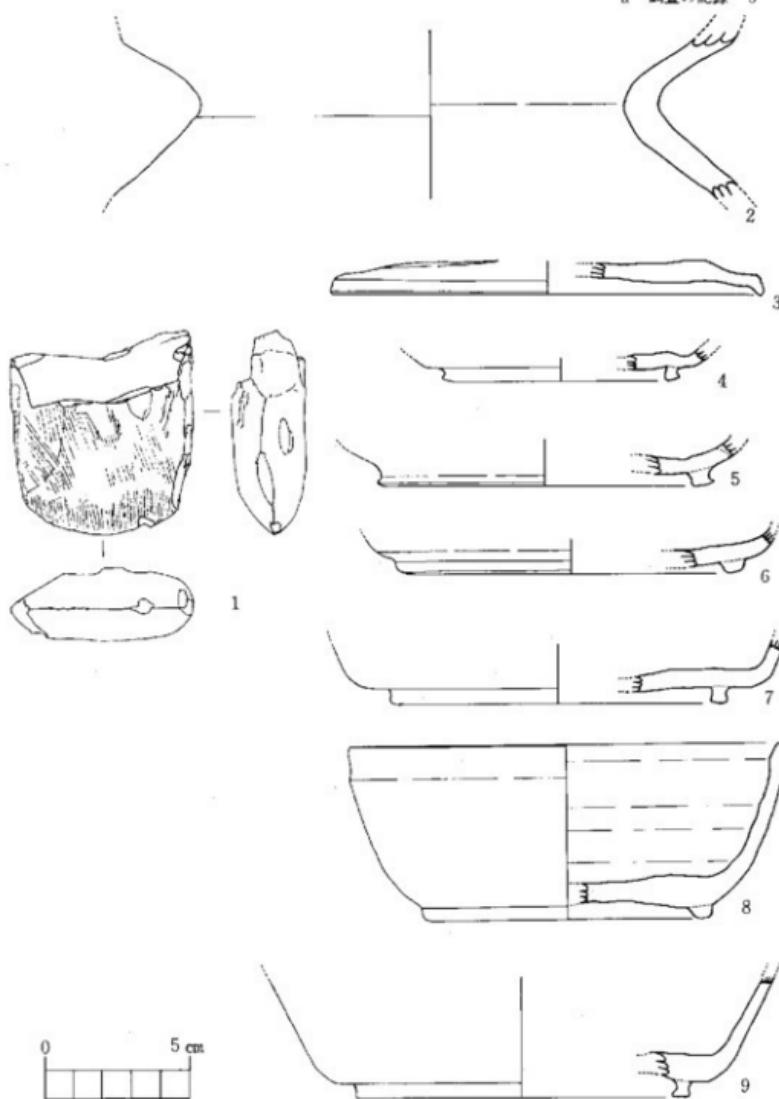
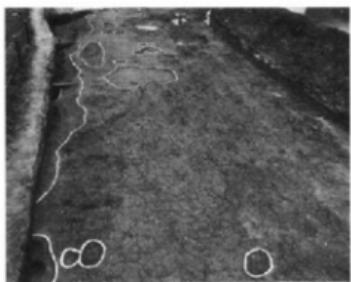


Fig. 4 浦江遺跡出土石器・土器実測図 (縮尺 1/2)

図 版



浦江遺跡段落部分（西から）



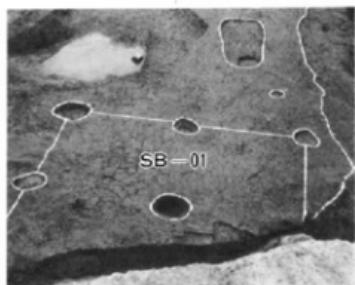
SB, Pit検出状態（北から）



SB - 02 検出状態（南から）



SB - 01 他遺構検出状態（東から）



SB - 01 検出状態（南から）



遺構検出状態（北から）



SX-01及び段落検出状態（南から）



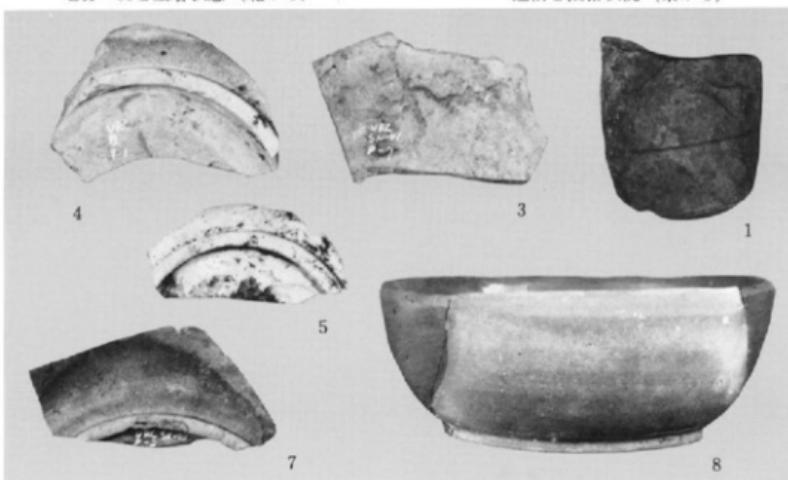
SX-01検出状態（北から）



SX-01と土層状態（北から）



遺構と段落状況（東から）



浦江遺跡出土土器・石器（縮尺 1/4）

浦江遺跡

福岡市埋蔵文化財調査報告書第165集

1987年3月31日

発行 福岡市教育委員会

印刷 玉川印刷(株)

